訴　　　　状

　　　　　　　　　　　　　　　　　　 平成●●年●●月●●日

　　 　　　　　●●裁判所　民事部　御中

〒×××－××××　●●県●●市●●●●●

　　　　　　　　　　　 電　話　　●●●－●●●●－●●●●

　　　　　　　　　　　 原　告　　●●　●●（あなたの氏名）

〒×××－××××　●●県●●市●●●●●

　　　　　　　　　　　 被　　　　　告　　　　　貸金業者株式会社（請求先）

上記代表者代表取締役　　●●　●●

過払金返還請求事件

　　　　 訴訟物の価額　　 金●●●●●円

　　　　 貼用印紙額　　 　金●●●●●円

請　求　の　趣　旨

１　 被告は原告に対し、金●●●●●円及び

　　 内金●●●●●円に対する●●年●●月●●日から

　　 請求日まで年５分の割合による金員を支払え。

２　 訴訟費用は被告の負担とする。

との判決ならびに仮執行宣言を求める。

請　求　の　原　因

　１　過払金元金

　　　●●年●●月●●日、原告と被告は、消費貸借契約を締結し

　　　原告は金●●万円を借入れ、その後取引終了までの間

　　　「利息制限法に基づく法定金利計算書」（甲１） 記載のとおり

　　　借入と返済を繰り返した。これを利息制限法の法定利率に照らし、

　　　引直計算をすると過払金元金金●●●●●円，

　　　過払金利息●●●●円の合計●●●●●円の

　　　過払金が発生している(甲１)

　２　利息（悪意の受益者）

　　　被告は、貸金業の登録業者であり、

　　　利息制限法を超える金利で貸付をしていることを知りながら、

　　　原告より返済を受けていたので、悪意の受益者にあたる。

　　　また、被告は「貸金業者株式会社（請求先）」であり、商人であるので、

　　　５％の利息を付して過払金を計算した。

　３　 被告は原告の損失によって、法律上の原因なくして、

　 　　請求の趣旨記載の金額と同額の利益を得ている。

　４　 よって、不当利得返還請求権に基づき、

　　 　請求の趣旨記載のとおりの判決を求める。

　　　　　　　　　　証　拠　方　法

　甲第１号証　　利息制限法に基づく法定金利計算書(原告作成)

　甲第２号証　　取引経過（被告作成）

　甲第３号証　　過払金請求書

　　　　　　　　　　添　付　書　類

　１．甲号証の写し　　各１通

　２．資格証明書　　　　１通